

「JENESYS2023」中国農村青年幹部代表团
フォローアップ オンライントークセッション

1. プログラム概要

【目的】

2023 年 8 月に訪日した中国の農村青年幹部（大学生村官）がオンラインで当時の訪問先と“再会”し、訪日テーマに関するトークセッションに参加することで、同テーマにおける日中相互の発展状況・現状を共有し、相互理解をより一層深めることを目的として実施しました。

【参加者】中国側：「JENESYS2023」中国農村青年幹部代表团 団員等 25 名

日本側：一般社団法人信州いいやま観光局、なべくら高原・森の家、ひぐらし農場、
小布施文化観光協会 4 名

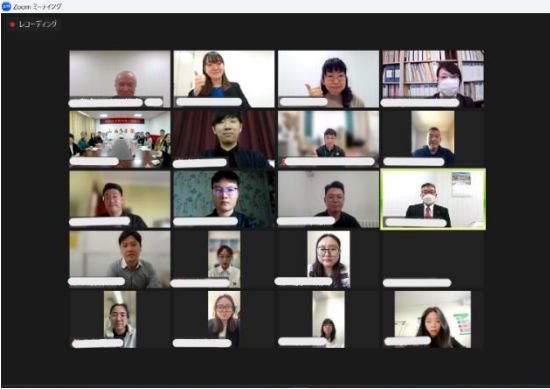
【日程】

■オンライン交流プログラム

2024 年 3 月 22 日（金）

3 月 22 日	交流先：長野県 ① 参加者紹介、事業趣旨説明 ② 日本側参加者の発表 (1) 一般社団法人 信州いいやま観光局 「長野県、飯山市の観光 信州いいやま観光局について」 (2) なべくら高原・森の家 「なべくら高原・森の家の取り組みについて～雪国の森林資源の利活用～」 (3) 小布施文化観光協会 街歩きガイド 「小布施町の概要とまちづくりの経緯等について」 ③ 質疑応答、意見交換 ④ 中国側参加者による発表 当時の団員 2 名による訪日団の振り返りと近況報告の発表 ⑤ 記念撮影
----------	--

2. 記録写真

	
質疑応答の様子	再会を祝して記念撮影

3. 中国参加者の感想（抜粋）

◆今回のオンライン交流会に参加できたことを大変嬉しく思います。帰国半年後にまた日本で見聞きたことについてオンラインで交流し、探求することができ、記憶を確かなものにする一助となりました。このような完全な学び方は、将来の仕事や生活の中でさらに熟考し、統合する価値があり、初心を忘れない忍耐の姿勢こそが、私たちが学ぶべきことです。何人かの先生方の講義の中で、冬と夏二つの季節の日本を目にしました。自身が以前に訪れた土地が、白い雪に覆われているのを見ました。それは時間と空間が入れ替わるような素晴らしい感覚で、日本での全ての記憶を思い出さずにはいられませんでした。地方創生の道で、先生方が前進を続け、誠実さを保ち、革新を続けている姿が、自分の立場で目標を設定し、前進していくよう私を励ましてくれました。

◆小布施町の一村一品など、人々に良い啓発を与え、深い感情を抱かせる農村創生の新たな事例に多く接し、農村創生の理論的知識の習得とより良い実践を一層強化していくことが必要であると感じました。今回の訪問は、例えば、森林セラピー、一村一品、道の駅など、非常に構想を広げ、視野も広げてくれる活動でした。

◆日本側の発表の際、去年の訪日時と比べて、日本は今の景色もとても美しく、ホームステイ等も特色があり、一年中、四季を通じて、豊富な天然資源を基盤に、さまざまなイベントを企画・革新し、その可能性を探ることで、消費者の人気を集め続けていることがわかりました。中国側の発表の際も、北京や山西省が急速に発展している様子を目にし、現代の科学技術や科学的知識を駆使しており、祖国の大河や山々にも感嘆しました。

4. 日本側参加者の感想（抜粋）

◆皆さんとても意欲的で、積極的に自分のやりたいことを自分の使命として意識しており、素晴らしいと思いました。

実施団体名：（公財）日中友好会館